

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行: 関西学生サッカー連盟
2009年5月9日発行 第5号

JUFA Kansai

第87回関西学生サッカーリーグ
2009年5月9日(土) 第6節

関西学生サッカーリーグ第6節



2得点でチームの勝利に貢献

(写真中央: 齊藤達也・桃山大)

Photo: フリーライター 久住 真穂

首位は依然桃山大。勝点僅差でひしめき合う中で2位以下は目まぐるしく順位が変動・・・。
前期中断まであと2節。過密連戦最終の今節、混戦の行方は!?

■5月9日(土) @ 鶴見緑地球技場

11:30 Kick off 関西大一大院大

「トライすること、仕掛けることができ始めて逆に課題が見えてきている。連勝しているから調子は上向きと言いきれないが、全体が連動した守備はできてきている」と、関西大・島岡健太監督。「ここまでの5試合を生かしながら、新たな第1戦として戦いたい」(島岡監督)。一方、「自分たちのサッカーをするだけ」と、大院大・藤原義三監督は話す。混戦模様のリーグ戦に食らいつくためにも連敗は避けたいところ。

14:00 Kick off 阪南大-桃山大

ようやく連敗から脱出した阪南大。「東も戻ってくるので、だいぶ良くなる」と須佐徹太郎監督。明るい材料が揃った。対するのは3節以降首位を走る桃山大。前節の大教大戦では2ゴールと活躍したFW⑩齋藤達也だが、驕ることなく「流れから点を取れていない。そこを改善したい」と更なるステップアップを誓う。明暗は如何に。

■5月9日(土) @ 三木総合防災公園第2陸上競技場

11:30 Kick off 京産大-大産大

下位に低迷する京産大だが、「今は我慢の時。リズムを作るためにも切り替えてやるしかない」と古井裕之監督。3連敗は避けたいところ。対する、大産大・榎引実監督は、「連戦が続くので、選手の体調などをしっかり見極めて準備したい」と語り、連敗からの脱出を狙う。勝利をつかむのは?

14:00 Kick off 関学大-大体大

「勝負強くなってきた。(前節で)3点獲るといって課題はクリアしたので今後は、アイデアを出して攻撃のパターンを増やしたい。」と関学大・ゲームキャプテン④志田野雄一朗は意欲的。⑩梶川諒太も「次勝ったら勢いが出る」と3連勝を狙う。一方、「もっと守備からガツガツ行って無失点でいきたい。いっぱい点が取れるチームじゃないが、毎試合1点は取れているので」と、大体大・相川茂樹。「チームのムードは決して良くはないが、切り替えてやるしかない(相川)」

■5月9日(土) @ 山城総合運動公園太陽が丘球技場B

11:30 Kick off 同 大-立命大

2連勝の同大⑨角島康介は立命大戦の前に、「京都選手権で勝った立命大にもう一度勝って、京都ナンバーワンの意地を見せる」と強い意気込み。「追いつかれたが、黒丸(敗戦)がないのは大きいこと。同志社大は京都選手権決勝の前半のイメージでしっかりあわせてやればゲームの流れは引き寄せられると思う」とは立命大・米田隆監督。互いに京都選手権での戦いをイメージに持つ両チームの対戦。リーグ戦で笑顔を見せるのは?

14:00 Kick off びわこ大-大教大

前節、終盤に追いつき引き分けに持ち込んだ、びわこ大・松田保総監督は「不甲斐ないチーム状況をいかに手直しできるかでしょう。でも望月監督の描くチームにはまだこれから」と試合終了後。「(大教大は)しっかりとしたことをやってくるチーム」と、相手を警戒。上位に競り勝ち、星を五分で上位校(2位)に臨む大教大⑩三好洋央は、「決める時に決める。それとセカンドボールへの執着」をびわこ大戦のテーマに掲げた。攻撃の中心選手として結果に結び付けられるか。

関西学院大学 vs 京都産業大学

勝てば一気に上位が狙える好位置にいる関学大。昨年の前期、苦い経験を味わった京産大は是非でも勝ち点を積み上げたいところ。走ることを得意とする両者の対戦となった。

序盤はサイドを使った京産大ペースで運ぶものの、均衡を破ったのは関学大だった。前半41分、MF⑱梶川諒太がショートコーナーからMF⑲阿部浩之と息の合った連携プレーでペナルティエリアへ切り込み、強烈な一振りで見事先制ゴール。渴望していた先制点を奪った関学大のリードで前半を折り返す。後半に入るとリズムを掴んだ関学大が優位に。互いに決定的な場面を作ることが出来ず迎えた終盤、関学大はGKからのボールをサイドへ展開。テンポ良いパスワークで最後は中央にいたFW 34 山内一樹が決め、前がかりになったところを突かれた京産大にとって痛い追加点を上げられる。さらにロスタイムには個人技でサイド突破した関学大DF③津田真吾が強烈なシュートを打ち3-0。京産大はDF 24 西口諒、MF 26 富田慧など新入生の安定したプレーで失点場面以外は守備陣が落ち着いた仕事ぶりを見せていたが、「ワンチャンスをもにされてしまった」(京産大・古井裕之監督)との言葉通り、決定力の高さを見せ付けた関学大の勝利となった。

(文：フリーライター 久住 真穂)

関学大 3 - 0 京産大

■5月5日(火・祝) 11:30 kick off
@高槻市立萩谷総合公園サッカー場

◆得点◆

関学大 41分 18 梶川 諒太 (19 阿部 浩之)
関学大 84分 34 山内 一樹 (24 瀧田 政徳)
関学大 89分 3 津田 真吾 (18 梶川 諒太)

阪南大学 vs 大阪学院大学

阪南大 2 - 0 大院大

■5月5日(火・祝) 14:00 kick off
@高槻市立萩谷総合公園サッカー場

◆得点◆

阪南大 6分 17 永岩 貞亮
阪南大 65分 34 南条 駿 (17 永岩 貞亮)

阪南大はここまで、木原、東と攻撃の核の不在が大きく響き、3連敗。この日は新入生が多く、控え選手は新入生ばかりと苦しい台所事情が伺える。下位に沈む両者の対戦は明暗が分かれた。

試合開始早々、PKを得た阪南大はMF⑰永岩貞亮がきっちり決め、1-0。だが、先制しても風邪で不調の選手も多く、前半から交代カードを切らざるを得ない状況に。しかし、この交代で入ったFW 34 南条駿が前線から守備を効かせる。65分、FW⑩棚橋雄介がサイドへ送り、永岩のクロスに合わせた南条が頭で決め、大院大を引き離す。大院大も⑦加藤健太など中盤の選手がコンスタントに落ち着いたプレーをするものの、前線でボールが収まらない。前半からFW⑨岡村和哉が孤軍奮闘するが、後半開始早々に放ったシュートは惜しくもバーに直撃するなど運も味方にならなかった。最後は、カード7枚が出る荒れた展開となった試合を守りきり阪南大が4試合ぶりの勝利を決めた。大院大・藤原義三監督は「繋ごうとやっていたが、こうも判定が曖昧ではサッカーができない」と口にした。一方の阪南大・須佐徹太郎監督は、「まだまだ歯切れが悪い。それでも厳しい試合を制することができて良かった」と久々の勝利をかみ締めていた。

(文：フリーライター 久住 真穂)

関西大学 vs 大阪体育大学

2連勝の関西大と2連敗の大体大という対照的なチーム同士の対戦。一進一退の展開が続いた11分、大体大DFのGKへのバックパスが短いところを執念深く追ったFW⑰金園英学が奪い、GK①松本智広をかかわして蹴り込み関西大が先制する。リードした関西大は金園を基点とした攻撃でペースを握り、MF 21 田中裕人、FW⑦佐藤悠希が絶好機を迎えるが、ゴール前で大体大DFの体を張ったディフェンスで追加点は決められないまま、勝負は後半へ。

1点を追う大体大はFW⑩川西翔太がFK、ミドルで関西大ゴールを脅かすが決められない。一方、関西大もDF②田中雄大のオーバーラップは効果的だが、なかなかシュートに持ち込めない。ずっと1-0のまま動かなかったスコアを動かしたのは関西大。84分、MF⑪中村祐哉の左コーナー付近のFKにDF⑤平野史明がヘッドで合わせ貴重な2点目。大体大はロスタイムにペナルティエリアからのFKをMF⑭相川茂樹が綺麗に決めたが、時すでに遅かった。今季、開幕から出遅れた関西大だが、この3連勝で順位も暫定2位に上げてきた。一方5試合すべてで2点目が奪えない大体大はFW陣の一層の奮起に期待したい。

(文：サッカーライター 貞永 晃二)

関西大 2 - 1 大体大

■5月5日(火・祝) 11:30 kick off
@高槻市立総合スポーツセンター

◆得点◆

関西大 11分 17 金園 英学
関西大 84分 5 平野 史明 (11 中村 祐哉)
大体大 89分 14 相川 茂樹

びわこ成蹊スポーツ大学 vs 立命館大学

びわこ大は、前半35分に⑬平野甲斐のパスからFW⑳澤西宏典が右サイドを突破し送ったクロスをも 30 原ノ園大将がピタリと合わせて先制し、立命大が絶好機を逃してくれたことにも助けられ前半を1-0で折り返した。びわこ大・松田保総監督が「サボった」と表現した後半のびわこ大。それに対して立命大はスタートから飛ばし、MF 26 村上巧、⑩内田昇輔が惜しいシュートを放つ。そして切り札FW⑨登弘幸が入った60分過ぎから攻勢をさらに強め、その登がファウルされて得たPKを登自身が67分に決めて同点とし、5分後にはCKからのゴール前混戦、DF⑮渡部寛のボレーが決まりに逆転成功。しかし4トップ気味で攻め込むびわこ大の攻撃を凌ぎ切れず88分にDF⑤内野貴志の冷静なシュートで追いつかれた。

立命大はあと数分が我慢できなかった。体調不良の望月聡監督に代わって急遽指揮を執った松田保監督が「監督不在で負けなくて良かったが、本来完敗のゲーム」と振り返るのもうなずける内容だっただけに立命大には悔しさいっぱい引き分けた。前節、桃山大にも87分に同点とされた立命大・米田隆監督も「2試合連続とベンチの責任は大きい」と反省しきりだった。

(文：サッカーライター 貞永 晃二)

びわこ大 立命大
2 - 2

■5月5日(火・祝) 14:00 kick off
@高槻市立総合スポーツセンター

◆得点◆

びわこ大 35分 30 原ノ園 大将 (20 澤西 宏典)
立命大 67分 9 登弘幸
立命大 72分 15 渡部 寛
びわこ大 88分 5 内野 貴志

桃山学院大学 vs 大阪教育大学

桃山大 大教大
2 - 1

■5月6日(水・祝) 11:30 kick off
@高槻市立萩谷総合公園サッカー場

◆得点◆

大教大 16分 9 森原 慎之佑 (15 小林 惇史)
桃山大 54分 11 斎藤 達也 (2 中山 修志)
桃山大 86分 11 斎藤 達也

前半と後半で、見事なまでに流れが変わった試合となった。大教大サッカーの真骨頂を「堅守速攻」と話し、「自分がフィニッシュの役割を果たす」と語っていたFW⑨森原慎之佑の言葉通り、前半は大教大らしさが目立った。中盤でボールカットをすると、シンプルに前線に預けて、桃山大のゴール前まで迫る展開を続ける。その流れの中で、16分、森原がルーズボールを上手くヘディングで流し込み先制。その後も、大教大は決定機を連発。しかし、ゴールに嫌われた。サッカーは、決める時に決めないとリズムが変わるもの。前半たった2本のシュートしか放てなかった桃山大が、後半に反撃に出る。

54分にエースの風格が漂うFW⑩齋藤達也が、右からのクロスで大外で上手く合わせて同点に持ち込む。後半動けなくなった大教大に対し、「シュートなど、プレーをやり切って終える」(松本直也監督)姿勢を保った桃山大が攻め続けた。そして86分。ライン裏に抜け出した齋藤がPKを獲得。それを自身で沈めて逆転。今季、終了間際の得点が多い桃山大が、この試合もその勢いを発揮。守備も、大教大の後半のシュートを1本に抑え込んでの勝利となった。

(文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

同志社大学 vs 大阪産業大学

連敗が続く大産大は、中盤の核⑩橘章斗が「こうなったら開き直るのみです」と語れば、同大の坂元要介コーチは「周りが勝って当然の空気になっているので、やりづらいかも」と警戒をしていた。

試合自体は90分間、同大のリズムだった。しかし8分に、大産大はPKのチャンスを得た。キッカーは、FW⑨西之宮慎司。この場面で、同大GK 21 堀之内義博が「予想して飛びました」というPKストップを見せる。普段はサブのGKだが、いきなりのスタメン出場で大仕事。そこからは、同大のダイレクトやワンタッチのパスワークが冴える。24分には、大産大DFを左右に振って、最後はMF 37 杉山和毅のクロスをもMF⑩北森陽介が丁寧にボレーで合わせて先制する。その後も、大産大の倍以上のシュートで攻め立てる同大。61分には、MF⑦楠神順平のクロスをも、DF③安川有が折り返し、最後は、FW⑨角島康介が見事なトラップでDFをかかわして蹴り込んだ。残り時間を、ボールポゼッションで終始支配した同大が、手堅く勝利を掴み、上位戦線に生き残った。

(文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

同大 大産大
2 - 0

■5月6日(水・祝) 14:00 kick off
@高槻市立萩谷総合公園サッカー場

◆得点◆

同大 24分 10 北森 陽介 (37 杉山 和毅)
同大 61分 9 角島 康介 (3 安川 有)